

炊き出しボランティア通信 vol62

2012, 7月

炊きだし 7月14日(土) 9:00 元寺小路教会に集合・準備。12:00 炊き出し

雨が我慢してくれた日。46名の参加者数。「若い人たちがいなくなった。常連さんに戻った。若い人はやっぱり就活力があるのかなあ。復興支援の建設現場？」ボランティアスタッフの感想に出た言葉でした。衣類提供の最中に、Wさんから呼ばれて行ってみると、夜回りの時以前国際センター表公園ベンチにいた、岩手の気の弱そうなおじいさんでした。その場所は住人が変わっていました。(おそらく追い出された)ご本人は今神社のある側の西公園ベンチで寝ているということでした。「おじさん、戻ったらいいですよ。この間センター前のベンチに行ったら誰もいませんでしたよ。」と勧めました。同好会からは2年生3名参加しました。仙台S学園高校3年生も3人参加しました。



「セット品がLとM、どちらですか？」



「リボンですが、やや緊張してます。」



「これでいいですかねえ？」



「ついボーッとしてしまいます。」



「うーん、これですねえ。」

- 今日は私のチームから二人、そして参加してみたいというクラスの子を入れても3人の参加でした。一時はどうなるのかと心配でしたが、S学園の人たちもいてボランティアの方が多くてよかったです。行動も早くできてよかったです。(2年)
- 今回は調理だけでなく、ホームレスの方に配る歯ブラシや靴下などを一つずつ袋詰めする作業も経験できてよかったです。次回の炊き出しでも、ただ待っているだけでなく、自分からもっと積極的に声をかけて、たくさんお手伝いができればいいなと思います。(2年)
- 炊き出しボランティアをやってみてすごくいい経験ができました。これからそれをいろいろな活動に活かしてゆきたいです。(2年)



明るいホンワカ3人衆

献品： 小学校から今回もたくさんの献品を預かりました。

夜回り 7月11(水)20:00~21:25

国際センター裏ベンチ。いつも通り。センター表の公園ベンチ。空。先月の気の荒いおじさんも、そ

の前の気の弱いおじさんも、誰もいなかった。

大橋下のKuさん。元気。最近食い物ない、とのこと。おにぎり、ゆで卵、カップ麺、みそスープ2杯さし上げた。荷物がまた一段と整理されて、あちこちに貼り紙もあった。「花火大会が近くなるとすぐこうされる。たった一日のために。ここは花火見る一番いい場所。トイレもいっぱい立ち並ぶ。おれも追い出される。」さみしそうに言う。「今日はKuさん、会話が成立するねえ。このあいだ、募金中に街中で会った時はひどかったでしょう？覚えてる？」と聞いた。「うんうん。若い時は一日一升飲んででもケロツとしてたが、今は食いもんねえから、一口飲んででもすぐ酔っぱらうからなあ。」と、しみじみ語るのであったKuさん。「でも、ここでないとKuさんに会えないから、追い出されてもまた戻ってきてね。」

西公園を通過して帰る途中、思い出した場所あり、引き返して元Oさんの陸橋下ハウスのあった場所に車を止め、そのそばの大きい石碑の裏に向かった。昼間見た時、人が寝起きしている様子があったところだった。近づいて「こんばんは一、夜回りです」と言うと、人がムックと起きあがった。HSさんだった。見ると、にこにこしている。「心配していました。どこにいたんですか？」「遠いところ」と言ってやっぱりにこにこしている。「ふーん。今みそスープやおむすび持ってきますね」小走りに車へ戻りながら、気持ちがウキウキしているのが自分でも分かる。遠い所って、Hさんから聞いて知っている限り牢屋だった。無銭飲食で、長かった。「HSさん、昼間はどこに？」「メディアテーク」「炊き出しは？」「行かない。

KuさんとHSさん。親しい二人の命に再会した晩だった。

Hさんから聞いたOさんのこと。お姉さんがそばに引き取って暮らしているとのことだった。これも、それが一番と思った。

夜回りは毎月第2水曜日におこなっています。炊き出しはその週の土曜日です。いずれも、カトリック正義と平和仙台協議会(代表W)がおこなっている活動に、ボランティアで参加させていただいています。興味のある方は、ご連絡いただいたら、ご一緒いたします。

文責 高橋 覚